

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 1272000116 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 旭福社会 | | |
| 事業所名 | やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい | | |
| 所在地 | 千葉県旭市イの3925番2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年10月1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年1月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | NPO法人ヒューマン・ネットワーク |
| 所在地 | 千葉県船橋市丸山2-10-15 |
| 訪問調査日 | 令和5年11月7日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やすらぎ園グループホームまどいは、平成12年に設立された千葉県第1号のグループホームです。「ひとり一人を大切にしたい質の高い介護サービスの提供」を理念に掲げ、サービスを提供しています。清潔で明るく家庭的な居心地の良い環境を作ります。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染予防策を徹底し、園内での活動を中心に支援していました。現在は季節の行事や外出行事を実施し、皆様の生活が豊かで楽しみのあるものになるよう支援しています。美味しい食事の提供と運動の機会を設け、健康で自立した生活が送れるよう支援します。協力医療機関として田辺病院、同敷地内にやすらぎ歯科クリニックがあり、医療連携体制が充実しています。法人系列施設との協力体制があり、緊急時、災害時にも安心してお過ごし頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの基本方針と目標を事業計画に明示し「ひとり一人を大切にしたい質の高い介護サービスを提供します」との法人理念の実践に努めている。2)特に「清潔で明るく家庭的な居心地の良い環境を提供し入居者本位のサービスを提供する」ことにチームワーク良く取り組んでいる。3)季節の行事や外出イベント、まどい歌集での合唱、お手玉・輪投げ、いきらく体操や散歩など楽しみのある生活が出来るよう工夫しながら個別の自立支援に取り組んでいる。4)緊急時や災害時対応は同一敷地内の法人施設との協力体制が出来ている。5)リビングで入居者と職員が明るく楽しそうに笑いながら、自然に語っている姿が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人として「一人ひとりを大切にしたい質の高い介護サービスの提供」を理念に掲げ、毎月の全体会議では重点目標を共有。事業計画は、地域密着型サービスの意義をふまえ、重点目標を設定し具体的なサービスの実践につなげている。 | 毎月の全体会議で月ごとの重点目標とともに「ひとり一人を大切にしたい質の高い介護サービスの提供」との法人理念を共有している。今年度の事業計画に2項目の基本方針と8項目の重点目標を明示し、入居者ひとり一人が楽しかったと笑顔になり活気ある生活が送れるよう、個別の自立支援にチームワーク良く取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 令和2年2月頃より、新型コロナウイルス感染予防の為、地域との交流は自粛していたが、感染対策をとりながら、近所の散歩やお花見など外出の機会を設けている。以前は、地域の行事に積極的に参加していた。また、災害時には、入浴施設を開放する等の地域貢献を行っていた。 | 近くの公園への散歩時の交流を始め、毎月の外出イベントで近隣のフルーツファームや藤棚見物をしたり、地域の行事にも参加し始め、コロナ禍で中断していた地域との交流も徐々に復活し始めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 令和2年2月頃より、新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流は自粛していたが、感染対策をとりながら、徐々に再開している。随時、入居希望者等より認知症の相談を受けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 令和2年2月頃より、新型コロナウイルス感染予防のため、書面開催としていたが、令和5年度より参集開催を再開している。運営推進会議では施設の活動報告を行い、施設の透明性の確保、理解促進に努めている。委員の方々に意見を伺い、サービス向上に活かしている。 | 市や地域包括職員、生活相談員、地域代表や家族が参加し、事業計画、入居者状況、行事報告・予定、研修報告、身体拘束適正化などを議題とし、2か月に一度開催している。写真を見せながら行事報告をするなどわかりやすい議事説明が行われ、出席者と活発な意見交換が行われ、会議が活かされていることが議事録からも読み取れる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 不明な点や相談、非常災害時の報告等は電話で行っている。また、月初に「入居者名簿・入居希望者名簿」を作成し、届けており、事業所の現状を伝える機会となっている。 | 高齢者福祉課職員と地域包括支援センター職員の方には、運営推進会議にも出席いただき、議事録も送付しホームの取り組みなどをお伝えしている。月初に「入居者名簿、入居希望者リスト」を届け、現状をお伝えする機会とするなど協力関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化の指針を整備し、研修を実施している。法人にて「身体拘束適正化委員会」を設置し、定期的に会議を開催し、議事録は全職員が閲覧している。 | 法人の身体拘束適正化指針に則り、計画的に研修を実施している。定期的開催される法人の「身体拘束適正化委員会」の議事録を全職員が閲覧できるようにしている。アンガーマネージメントを取り入れ、職員は虐待防止チェックリストを活用し、自らの介護や言動を振り返り、職員同士が話し合うなど身体拘束をしないケアを実践している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入社時や事業所内で研修を行う他、毎日のミーティングや毎月の全体会議で代表者、管理者より話あり。法人全体で注意を払い、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 事業所にて研修を行い、職員が事業や制度を学ぶ機会を作っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約、解約、改定の際には、利用者やご家族に十分に説明を行い、理解と同意を得た上で署名、捺印を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年1回、満足度調査を実施。結果を参考に、日々のサービス向上に努めている。またご家族との電話連絡の際に、要望を伺っている。 | 家族との連携を大切にし、年4回、日頃の生活の様子や外出行事、散歩、運動会風景などの写真にコメントを付け「まどい新聞」に沢山載せ、家族に送付している。また、夏祭り、敬老会、家族会など家族参加行事も多く、ホームの生活ぶりを見ていただき、意見や要望を言っていただきやすくしている。毎年、満足度調査も実施し、結果を公表し運営に生かすようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務に関する意見や提案は、定期的にチーム会議で話し合い、運営に活かしている。また、職員からの意見や提案をまとめ、決裁の必要な事項は文書にし、法人に提案している。 | 季節の行事・外出・創作・手芸・工作・おやつ作りなど職員一人一人の得意分野を生かし業務担当者を中心にチーム会議で話し合い、運営に反映させている。毎年職員アンケートを実施し、意見や要望を提案する仕組みが整備されている。ワークライフバランスに配慮した勤務時間の調整や希望休など働きやすい職場環境整備に努めている。計画的な法人内研修などスキル向上に努め、受講費補助をするなど職員の資格取得を奨励し職員育成に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人で職場環境委員会を設置。各事業所で目標を設定し、明るく元気に楽しく仕事ができるよう努めている。職員の目標の達成度や資格取得によって、昇進等を行う。職員の希望に合わせた勤務時間になるように調整を行う等、働きやすい条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人で研修を開催する他、初任者研修養成講座を開催し職員の育成に取り組んでいる。外部研修への受講も多い。職員の資格取得を奨励し、研修、講座受講には法人が費用を補助する仕組みがある。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のグループホーム連絡会と施設部会の連絡網があり、ネットワークが作られている。令和2年2月頃より、新型コロナウイルス感染予防の為、外部との交流は自粛しているが、電話にて、相談や意見を伺っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご自宅に訪問した際に、お話を伺う他、入居前に同法人で運営のデイサービスやショートステイ、ケアハウス等を利用されていれば、職員が伺い、声をおかけし、少しずつ馴染みの関係を作る努力をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に不安に感じていることを、よく伺い、不安を解消して安心して入居できるように努力している。電話連絡の際には要望等を気軽に話して頂けるよう関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族、担当介護支援専門員からの情報を基に、母体法人内の事業所担当者やグループホームの入居が適切であるか検討し、必要に応じて他のサービス利用を勧める等している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日頃から、一緒に家事や散歩をする中で、世間話や昔の話を聞いたりし、笑い合い、励まし合う関係となっている。園芸等は、教えて頂くことが多い。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 状況に応じて、病院受診や衣類、日用品の購入はご家族にお願いしている。新型コロナウイルス感染予防の為、面会、外出、外泊等、制限を設けた上で実施している。ご家族へは電話にて日ごろの状況やご本人の気持ち等をお伝えしている。また、まどい新聞を発行し、WEB面会も利用して頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 令和2年2月頃より、新型コロナウイルス感染予防の為、外部との交流は減少していたが、徐々に再開している。行動の制限等については、法人で検討していく。 | 職員が入居者の馴染みの人や場所を知り、写真を見ながら話ができるよう、全入居者に本人のアルバムを持ってきていただくようにしている。本園での歌の会への参加ややすらぎ園内の散策の機会に、ももとの顔なじみのケアハウスの利用者や本館の利用者・職員などと笑顔を交わすなど少しでもなじみの関係を継続できるよう支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握し、和が保てるように支援している。利用者一人ひとりが出来る範囲で家事を担当し、互いに協力し、補い合い、感謝の言葉を伝えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | グループホームから併設の特養へ移られる方も多く、関係が継続している。退院時には、必要に応じて法人内の事業所と連携し、相談や支援の体制ができています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で、表情やご本人の会話の中から希望や意向を把握するように努めている。困難な場合には、ご家族、関係者から生活歴や性格等の情報を得て、ご本人らしさを大切に、望む暮らしについて検討している。 | 入居前に自宅や施設に赴き、家族やサービス事業所の責任者から、食事、移動、入浴、排泄の現状や生活歴、趣味などの情報をできるだけ多く収集し、本人、家族の意向の把握に重点を置いて取り組んでいる。入居後の一定期間は、環境の変化に伴う言動の変化やADL等を集中的に全職員が観察するように努めている。また、入浴中やアクティビティの休憩中の会話の中から、「健康でいたいね」「皆さんと仲良く生活したい」などの希望や今の気持ちを聞き取るようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族より生活歴を伺う他、担当介護支援専門員、利用されていた介護サービス事業所等からも情報収集を行い、経過を把握し支援に活かせるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケアチェック表や日誌に、その日の暮らしの様子や変化のあったことを記録し、ご本人の残存機能や心身状態の把握に努めている。職員間でも情報を共有し、心身の状態に合ったケアを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアカンファレンスを定期的に行い、多職種間で意見交換、情報交換し、ご本人の意向に沿った介護計画を作成するよう努めている。事前に、ご家族から要望を伺い、必要時は、法人理学療法士、歯科衛生士からも助言を得ている。 | 「不安のない生活」「元気でいたい」など本人、家族の意向に沿った短期目標を設定している。ケアチェック表を活用して、短期目標毎の支援状況を毎日確認しており、職員がケアプランを常に意識して支援できるように工夫している。職員の関わり、入居者の言葉、表情などは、ケア記録欄に記入され、毎月、居室担当者が評価を行っている。ケアカンファレンスでは、支援方法の検討やコミュニケーションの取り方などについて、職員、看護師、ケアマネ間で意見交換を行い、ケアプランを見直している。 | 毎週、職員によるモニタリングを実施しているが、ケア記録欄のコメントの更なる充実が望まれる。職員の支援による本人の言動の変化やその背景、原因などを具体的に記入し、短期目標の評価及びケアプランの見直し時に活用しやすいケアチェック表の工夫に期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアチェック表、日誌、食事・排泄チェック表等に、日々の様子を記録し、職員間で情報を共有するとともに、介護計画の見直し時に活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 受診の付き添い、日用品の買い物等、御家族が困難な場合に、職員が対応。法人内の協力体制により、健康管理、機能訓練等に専門的な支援ができる。体調の変化に合わせ、食事形態、内容の変更も柔軟に行える。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 令和2年2月頃より、新型コロナウイルス感染予防の為、地域との交流は減少しているが、年末には押し花カレンダーを無償で提供していただいた。敷地内に歯科クリニック、近隣に消防署、警察署があり、何かあれば、すぐに対応してもらえることができる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力病院との関係が密であり、緊急時、急変時の協力体制がある。受診は基本的にはご家族にお願いしており、状態についてはご家族や書面にて医師に報告を行い、適切な医療が受けられるように支援している。 | かかりつけの内科、泌尿器科などの医療機関へ家族同行により受診を行い、緊急時には必要に応じて職員による同行支援も行われている。血圧の著明な変動や浮腫の訴え、夜間の不穏行動などの症状、主訴や処方依頼、相談事項などを「受診依頼書」に整理し、受診前に医療機関にFAXして、入居者が円滑に受診できるように支援している。受診後は家族から医師からの指示事項や検査結果を聞き取り、申し送りノートに記録し、職員間の医療情報の共有を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員は日々の体調を看護師に報告、相談しており、看護職員は健康管理やかかりつけ医との連絡を行う。看護師が休みの日でも併設の特養に看護師が常勤している為、報告し相談できる体制がある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は日頃の生活状況を記載したサマリーを作成し、速やかに病院に情報提供を行っている。医療機関と適宜連絡がとれる体制ができており、情報交換や相談ができる関係であり、早期の退院ができるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約時に重度化した場合の対応を説明している。重度化した場合には、入居者、ご家族の意向を確認しながら、必要に応じて系列施設への入所の検討も行う。入院する場合も退院後に本人に必要なサービスが受けられるように系列施設と連携をとっている。 | 入居時に「重度化した場合における対応指針」を使用して、ホームで対応可能な範囲の説明を行い、利用者、家族の同意を得ている。重度化した際は、頻回に見守りを行い、症状の変化にいつでも対応できるように支援している。入院が必要になった際には、法人の看護師や協力医療機関との連携をとり、医療情報や生活状況等の情報を医療機関に提供して、支援の継続を図っている。また、ホームでの介助が困難になった際は、特養などの他の介護施設への受け入れ調整など家族の意向に沿って支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は研修に参加し対応できるように訓練している。緊急時のマニュアルを備えており、手順に沿って対応できるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法人で防災管理を行っている。防災マニュアルがあり、全職員に周知し、災害に備えている。また、消防署が近隣にあり、普段より協力体制がある。 | 「非常時災害対応マニュアル」には、台風、大雨、地震などの自然災害時の対応手順や避難場所、浸水警戒地域図、緊急連絡網が記載され、職員の周知を図っている。水害時の浸水を想定した訓練では、入居者は防災頭巾を着用し名札を下げて1階より2階のデイルームへの避難誘導や敷地内の他の施設への誘導など、実践的な訓練を職員の防災研修を兼ねて実施している。火元が想定される厨房のガスの元栓や電気器具の点検を確実に実施し、消火器の使い方や設置位置の確認を励行している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシー保護のマニュアルを備え、言葉遣い、排泄介助の際の声掛け、入浴時の配慮、居室入室時に本人の了解を得る等、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。 | 急がせず、無理をせず、ペースに合わせての声掛けや笑顔と思いやりのある態度、丁寧な言葉遣いを大切に支援している。孤独感や寂しさを感じさせないように全入居者へ話しかけ、軽作業や散歩などの機会を多く設けるように努めている。また、居室への入室の際のノック、声掛けなどのプライバシーへの配慮や入浴、排泄、更衣時の入居者の羞恥心には特に配慮している。朝の更衣では、入居者はその日の気分に合わせて衣服を選び、髪型にこだわりのある方には個々の整容支援も行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | その日に着る服やアクティビティ、毎日のおやつや飲み物等、複数の選択肢を用意し、出来る限りご本人に選んで頂くようにし、自己決定を大切にしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床の時間や食事の時間等は、一人ひとりのペースに合わせ、柔軟に対応している。部屋で過ごされたり、散歩をされたりと、ご本人の希望に沿って支援している。特に希望がない場合には、いくつか提案し、選択して頂いている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その日に着たい洋服を一緒に選んだり、髪の毛をセットするなどし、おしゃれをする。理美容はご本人の希望に合わせ、カットをお願いしている。化粧水や乳液を使われる方もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は併設の特養から配食されるが、盛り付けや後片付けは利用者と一緒にやる。また、月に1度、自分達で調理やおやつ作りを行う。入居者の希望を取り入れ、一緒に調理を行っている。今年度はEPA職員の母国の料理作りを行った。 | 自分の好みの茶碗やお箸を使い、家庭的な雰囲気の中で、食欲につながる見栄えの良い、美味しい食事の提供に力を入れている。メニューに変化をつけ、食事への関心を高めるため、入居者の希望を取り入れた自炊行事を毎月行っている。筍ご飯、野菜カレー作り、芋煮などの調理には、包丁を使っの皮むきなど、レベルに合わせて参加している。また、スイートポテトやお好み焼きなどのおやつ作りも頻回に行い、行事開催時にはおせち料理やちらしずしなどを提供し、季節感を味わっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスが考慮されている。一人ひとりに合わせた食事形態や量、介助法を多職種で相談の上提供している。間食を含め、食事、水分摂取量は食事チェック表に記録し、体調管理を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行う。自立の方も見守りし、時に援助をする。歯科クリニックに定期受診し、歯周病の予防、口腔衛生に力を入れている。食前に口腔体操を実施し、口腔機能向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた排泄支援を行う。トイレでの排泄を基本としている。オムツ、パット類は定期的に見直している。 | 坐位が取れる入居者には、トイレでの排泄を第一に考えて取り組んでいる。排泄チェック表によりパターンを把握し、不自然な動きや表情を察知した際には、さりげない声掛けと羞恥心にも配慮してトイレ誘導を行っている。チーム会議では、トイレでの介助法、パットの大きさ、交換回数など個別の検討を行い、自力でのトイレでの排泄と失禁回数の減少、おむつ使用ゼロにつなげている。トイレドアには、大きな文字の札を付けて、入居者が混乱せず慌てずに利用できるように配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を使用し、排泄状況を管理している。毎日の体操、散歩で身体を動かす機会を作っている。便秘の際には看護師と連携し対応。腹部のマッサージや水分摂取を促す等、便秘の予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴はおおよそ隔日で行っている。安全面を考え、入浴は日中に実施している。お一人おひとり、ご自分のペースで入浴できるように支援している。 | 入浴チェック表を活用して、ほとんどの入居者が2日に1回、職員との会話をしながら入浴を楽しんでいる。入浴前の血圧を管理し、短時間入浴やシャワー浴、中止等を判断して安全な入浴を図り、熱め・ぬるめなどの好みや希望には柔軟に対応している。浴槽には回転式のバスボード、入浴台が設置され、跨ぎ動作に不安のある入居者も安心して入浴できている。入浴を拒否する入居者には無理強いをせずに、着替えの声掛けなどで浴室へ誘導したり、時間をずらすなどの工夫により入浴を勧めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝、起床時間はおおよそご本人に任せている。自室、ソファ等で自由に休んで頂き、ご本人に眠気や疲れが見られた際には休息を勧めている。日中の活動量や日光にあたる時間をもち、夜間に良眠できるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬表を作成し、薬の目的、副作用、用法、用量について記載している。内服薬の変更等は申し送りノートに記載。経過観察が必要な事項に関しては記録を取り、看護師、主治医へ情報提供を行う。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事の支度や、食器洗い、洗濯物たたみや、モップ掛け、掃き掃除等、その方それぞれが得意なことを役割として頂いている。歌の集い、散歩、アクティビティを実施し、張りをもち、孤独を感じないような生活を支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的には、園内の散歩の声掛けを行い、戸外に出かける機会としている。令和2年2月頃より、新型コロナウイルス感染予防の為、外出の機会は減少していたが、徐々に再開している。ご家族との外出の際は、ご家族が不安なく外出できるように、心身の状態や支援方法を具体的にお伝えしている。 | 季節を感じ、地域とつながれるように、外出行事に力を入れて取り組んでいる。果樹園、道の駅へのドライブや市の七夕祭り、河津桜見物など、季節ごとに多彩な外出行事を実施し、入居者の気分転換と笑顔につなげている。入居者同士での園庭散歩が日課となっており、園外に出るの散歩の途中では季節の花を見て五感を刺激し、身体機能の維持も図っている。お盆の墓参りなどの家族との外出も再開しており、外出時の注意事項などを家族に伝えて、安心、安全な外出ができるように配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 令和2年2月頃より、新型コロナウイルス感染予防の為、外出の機会は減少していたが、徐々に再開している。外出等で買い物や外食をされる際には、ご自身でお支払いができるように、お財布と現金を用意している。また、手持ちのお金が無いと不安な方は、ご家族と相談の上で少額の現金を持って頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人より希望があれば、電話を掛ける支援をしている。ご家族から施設に電話連絡があった際には、ご本人との会話をお勧めし、つないでいる。年末には年賀状作成の支援を行う。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間は吹き抜けとなっており、2階にいても、声を通り、互いの存在を感じられ、安心できる。床暖房やエアコン、加湿器を使用し、温度、湿度に配慮している。物品は収納し混乱しないようにしている。季節に合わせて設えを変え、家庭的な雰囲気大切にしている。 | オープンキッチンや階段の見える吹き抜けの1階のリビングは、家庭的な雰囲気づくりと安心して落ち着いて生活できるように配慮されている。リビングでの毎朝の体操では、声を出して体を動かし、懐かしい歌の合唱や入居者同士の会話を楽しんでいる。また、入居者同士の相性やADLを考慮してテーブル席の配置の変更を随時行っている。2階のスペースには、円形のテーブルが用意され、入居者同士の団らんに活用されている。玄関先には季節の花がプランターに植えられ、入居者が毎日の水やりで植物と触れ合っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食事の時間やティータイムは座席を決めさせて頂いているが、その他の時間は2階のダイニングやソファのスペース、玄関ホール、洗面所等、お好きな場所でお話したり、テレビを見たりと思い思いに過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族の協力を得て、使い慣れた家具、寝具を持ち込んで頂く。また、ご家族の写真などを飾り、温かみのある居心地の良い居室となるよう工夫している。職員は掃除や居室の整理を一緒に行い、清潔な環境を維持している。 | 使い慣れた座椅子や整理ダンス、ぬいぐるみ人形などが持ち込まれ、これまでの生活の延長を感じられるように配慮している。可動式の介護用ベッドも持ち込まれ、立ち上がり時のふらつきや転倒防止を図っている。居室の壁には、制作物のクリスマスの飾りが掲示され、季節を感じられる居室づくりが行われている。衣替え時には、家族の協力を得て衣服の交換を行い、クローゼット内の整理や室内の清掃など清潔な居室づくりを支援している。居室の湿度、温度管理には特に注意を払い、感染症予防に努めし、健康管理を図っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室には名札をつけ、トイレドアにも札をつけ、わかりやすくしている。トイレに入っている時には入口のランプが点灯し、他の入居者が入ってしまわないように配慮されている。足元が不安定な方や頻尿な方は居室やトイレに近い席を用意し、ご自身の負担を減らしている。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--------------------------------|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 40 | ティータイムのおやつに提供するものが、市販品が多くなっている | 入居者と一緒に調理をしたり、手作りのおやつや果物を提供する日を増やす | <ul style="list-style-type: none"> ・月2回を目標に担当を決め、計画を立てて実施する ・季節感を大切にし、インターネットや書籍のメニューを参考にする | 6ヶ月 |
| 2 | 48 | アクティビティがマンネリ化している | 皆で楽しめるアクティビティや、個性を活かしたアクティビティを取り入れる | <ul style="list-style-type: none"> ・担当を決め、インターネットや書籍のメニューを参考にし、必要物品を用意し実施する ・職員間で情報を共有し、本人の意向を把握し支援する | 6ヶ月 |
| 3 | 49 | 散歩や外出の機会が少なくなっている | 園庭散歩や外出の機会を増やし、気分転換を図るとともに、体を動かす機会を設ける | <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの心身状況を把握する ・外出の際は、無理のないよう計画を立て、参加支援を行う ・短時間でもよいので体を動かす機会を設け、参加支援を行う ・理学療法士と連携を取り、屋内でできる運動の支援を行う | 6ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。